



巻頭言—「正義」と「美德」

なにをもって「正義」(正しくあること)とするのかということ、なにをもって「美德」(よりよきこと)とするのかということは関連していますが、同じではありません。すべての価値の「共通通貨」、すなわちすべての価値を単一の尺度(1つの共通の基準)で捉え、測ろうとする際の指標について、功利主義は明快に答えてくれています。功利主義的な観点からすれば、「より多くの人の幸福を最大化すること」が正しいことになります。しかし、すでに確認してきたように100人中たとえ99人が幸福だと感じていても、それがだれかの犠牲の上に成り立っているとすれば(1人をいじめることで、99人が楽しんでいるというような状況を想像してみれば)、果たしてそれは正義に適っているのかとの問いが生じてきます。そしてなによりもそうした状態は、おそらく「よいこと」である(美德に適っている)とはいえません。

同様に経済合理主義的に利益を追求することは、市場における基本原則ですので、そこでは「利益を上げること」が正しいということになります。しかし、現実はその単純ではありません。アメリカの経済誌『フォーブス』は毎年、世界の富豪ランキングを発表していますが、今年の4月に2025年のランキングを発表しました。第1位はアメリカの電気自動車メーカー「テスラ」のCEOで、トランプ政権で要職を務めていたイーロン・マスクで、2022年以来3年ぶりに1位になったとのことでした。

貧困撲滅に取り組む国際NGO「オックスファム」が、2024年1月に格差が世界分断させているとする報告書を発表しました。2024年時点ではイーロン・マスクや高級ブランドLVMHのベルナール・アルノー会長、アマゾン創業者のジェフ・ベゾス、オラクル創業者のラリー・エリソン、投資家のウォーレン・バフェットが世界で最も裕福な5人であるとのことで、新型コロナ感染症が拡大した2020年以降、この5人の資産が4050億(約59兆円)ドルから2.14倍の8690億ドル(約127兆円)に膨らんだとのことでした。日本の2025年度の国家予算の一般会計の歳出総額が約115兆円余りなので、その膨大さに圧倒されます。そしてその一方で、この間に約50億人がより貧しくなっているのです(安田聡子(2024)「過去3年で世界の半数以上が貧しくなり、上位5人の億万長者が富を倍増させた【Oxfam報告書】」『HUFFPOST』)。

ごくわずかな大富豪にいっそう富が集中し、貧しき人たちがいっそう貧しくなり、格差が拡大し続けるような現状を果



たして「正しい」ことだといえるのでしょうか。自由と経済との関係については、ジョン・ロールズ(Rawls, J.B. 1921-2002)の『正義論』(1971)をもとに、次号以降で改めて考えてみることにします。

美德についていえば、たとえばシェークスピアの『ハムレット』の舞台を観劇することと、アメリカを代表するテレビアニメである『ザ・シンプソンズ』を観ることを比べた場合、そこで得られる「快楽の質」には差はあるといえるのでしょうか(サンデル、p.92-)。単に「楽しめる」ということを基準にするのであれば、『ザ・シンプソンズ』に軍配があがるでしょうが、「質の高い快楽」を問うのであれば『ハムレット』が選ばれるでしょう。『ハムレット』を愉しめるためには、それを愉しめるだけの素養のようなものがようになります。

フランスの社会学者のブルデュー(Bourdieu, P. 1930-2002)は、個人が社会的な環境や文化的な背景をもとに身につける習慣や行動の特性を「ハビトゥス」という概念で説明していますが、『ハムレット』を愉しむことができるハビトゥスがあるためには、それを愉しめるような「文化資本」(この場合であれば、幼いころより観劇に行くような環境やシェークスピアの作品が話題になるような家庭環境や友人関係)を有していたということでもあります。反射的に得られる笑いやおもしろさも大切ですが、それを「愉しむ」ためには、それを愉しめるだけの「素養」や「能力」が求められるような快楽のほうが、より美德に適っているともいえます。人は「自己実現」、すなわち「自分が自分になること」、「より自分らしく生きること」を求める存在です。「正しくあること」を求め、「よりよくあること」を大切にします。「正義」と「美德」とが、同時に満たされるような生き方ができるよう模索することは、尊いことだといえます。そのためにもしっかりと考え、それを行動に移すことが大切です。

KCD ラボ代表 松端 克文

シリーズ 情勢分析と運営・実践の処方箋

今月のテーマ：行動療法にもとづく支援（上）

◆強度行動障害のある人に対する行動療法

強度行動障害とは、自傷や他害、こだわり、睡眠の乱れや異食、多動などがあり、それが頻発するために本人や周囲の人たちの生活に大きな影響を及ぼし、その改善が求められるような状態であり、支援することが著しく困難な状態に置かれている重い知的障害のある人のことをいうが、自閉スペクトラム症を伴っていることが多いとされている。強度行動障害は、医学的な診断名ではなく、行政用語である。1993（平成5）年度より厚生省（当時）の事業として「強度行動障害特別処遇事業」が実施され、それ以来、強度行動障害が支援上の大きな課題とされるようになってきた。

強度行動障害がある人に対する支援のあり方として、学習理論を中心として行動分析的な知見が注目され、不適応行動を修正したり、「問題行動」（正確には「問題とされる行動」）の改善をはかる方法として、支援の現場では行動療法とそれに関連する方法が取り入れられるようになっている。

行動分析学では、強度行動障害を「重度知的発達症や自閉スペクトラム症の当事者の刺激や情報の受け取りの特異性および、言葉による表現の困難さを有する当事者と生活環境との相互作用で生じる不調和」として捉えており、問題行動を当事者からの「訴え」としている（井上雅彦ほか（2024）「強度行動障害に関する支援ガイドライン—一般社団法人日本行動分析学会 強度行動障害に関する支援ガイドライン作成委員会—」『Japanese Journal of Behavior Analysis』Vol.38, No.2, pp.142-142）。

◆「問題とされる行動」（標的行動）の機能を特定する

行動分析学では、「問題とされる行動」（以下、「問題行動」）を改善していくための「標的行動」として捉え、その行動の機能を特定するためのアセスメントに基づき支援を実施していくことになる。

行動分析学では、「問題行動」を当事者からの「訴え」として捉え、その行動がどのように「機能」しているのかを分析する。大きく分けると問題行動は、次の4つの機能に分けることができる。

問題行動の機能

1. 誰かからの注目を獲得する＜注目＞
2. 物や活動を要求する＜要求＞
3. 嫌悪事態を回避・逃避する＜回避・逃避＞
4. 自身が新たな感覚を獲得する、あるいは自身にある感覚を除去する＜感覚＞

（井上ほか（2024）、p.143より）

問題行動が起こりやすい環境（場面、活動、支援者などの条件）や、逆に問題行動が起こりにくい環境を特定し、行動観察や随伴性操作による機能分析が必要となる（井上ほか、p.143）。一般に行動分析学における機能分析では、刺激と反応の関係を確立するためにオペラント条件付け（＝行動の後の事後事象によって、その後の行動の生起頻度が変化する行動。たとえば、「知人に会う」⇒「挨拶をする」⇒「挨拶が返ってくる」というような展開）とレスポナント条件付け（＝先行事象によって誘発される行動。たとえば、「ホコリが目に入

る」⇒「涙がでる」）の法則を適用している。オペラント行動の機能をアセスメントする際には、「三項の随伴性」に着目する。すなわち、先行条件-Antecedents-（A：どのような状況で）⇒行動-Behavior-（B：どのような行動が起こり）⇒結果-Consequences-（C：どのような結果になったか・変化したか）という3つの枠組みで行動を捉える。こうした枠組みは、頭文字をとってABC分析といわれている。こうしたアセスメントに基づき問題行動が維持されている随伴性に関する仮説を立て、支援計画に基づいて具体的な支援を展開していくことになる（井上ほか、p.143）。

そこで重要となるのが、予防的な視点である。すなわち、問題行動を起こさなくても済むような環境設定を行うことが重要となる。その内容としては、大きくは問題行動を起こさなくても済む環境設定と、望ましい行動を起こしやすい環境設定の2つがある。問題行動を起こさなくても済むような環境設定としては、物理的な環境設定として（具体的には本人にとっての「嫌悪刺激」をなくす、もしくは少なくするために）、物の配置などの生活環境の見直しや、日課や活動スケジュールの改善、あるいは視覚支援を取り入れての選択肢の提示の工夫などがあげられる。

また、非随伴性強化として、問題行動を維持している強化子を当事者の行動とは無関係に豊富に提供し、問題行動を減らしていく方法がある。たとえば、問題行動の機能として、他者からの＜注目＞によって問題行動が強化されている場合、問題行動を起こさなくても、支援者が常に本人の様子を気かけ、適宜声かけをしたり、寄り添いかかわる機会を増やすなど、本人が他者からの＜注目＞を得ることができれば、「他者からの注目がいない状態（先行事象）」→「問題行動」→「注目される（かまってもらえる）」という随伴性が崩れ、問題行動が生じにくくなるといえる。

◆罰を用いた嫌悪アプローチの禁止

強度行動障害がある人に対しては、身体拘束などの虐待のリスクが高くなることが確認されている。日本行動分析学会も暴力や脅迫、身体拘束などのいかなる「体罰」にも反対し、禁止する声明を出している（井上ほか、p.142）。行動療法でいえば、理論上では本人に罰を与えるという嫌悪刺激により強度行動障害を軽減させるというアプローチに陥ることもある。指導という名のもで、本人に指示を与え、それが守れなければ罰を与えるという対応は、支援者主導で当事者を操作しているような錯覚をもたらす。

しかし、罰を用いた嫌悪アプローチは人権を侵害する対応であり、支援に値しない愚行である。したがって、罰を用いない非嫌悪的アプローチを基本としなければならない。

問題行動の軽減だけでなく、本人の「生活の質 QOL」そのものの向上を目指して生活環境を再構築し、本人の行動のレパートリーを豊かにしていくような支援が求められる。ノーマライゼーションやインクルージョンを重視し、本人を中心とした「ポジティブ行動支援（Positive Behavior Support: PBS）」が、今日では重視されている。

KCD ラボ代表 松端 克文

（武庫川女子大学心理・社会福祉学部教授）

毎月ホットなテーマを取り上げ、ヒントを提供します。

シリーズ 障害者支援 超実践！ ⑥ ～〇〇のあり方ってどうなん？～

◆令和7年度全国知的障害関係施設長等会議

7月10日(木)～11日(金)東京国際フォーラムで開催された、令和7年度全国知的障害関係施設長等会議に参加し、11日の分科会では、第4分科会のシンポジストとして登壇しました。



第4分科会のテーマ『障害福祉の魅力発信と他業種からの人材活用』に沿って、主に兵庫県や当法人、よろこび荘の魅力を伝え、人材育成や人材定着について発題しました。当日は、まず東京国際フォーラムの巨大さに圧倒され、分科会はホールごとで行われるのですが、ひとつのホールが地区の全国大会並みのキャパシティなので、めちゃくちゃ緊張してしまいました(笑)。

2024年日本の年間出生数が70万人を下回った現状(厚生労働省6月4日発表/人口動態統計月報年計より)を鑑みると、テーマの“人材活用”は日本にとって、また今後の障害福祉の分野にとって非常に重要なテーマであると感じました。そのような場に登壇させていただけたことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。

◆私ができること③ 「やってみなはれ」

本誌5月号(vol.86)と7月号(vol.88)では、さまざまな課題があるなかで、私(あなた)の立場からまずはできることをしていきましょう、そのための必要なサイクルや課題の整理を行うことについて記しました。今年度も9月を迎え、上半期も終盤です。上半期を振り返って「あなたができること」は実践できたでしょうか？

私にとって実践とは、華やかさやポジティブなものばかりでなく、地味で地道で苦悩を伴うものもあります(むしろこちらの方が多いかもしれません)。自分のできることに目を向けず、地味で地道な苦悩を避けてきた者たちはすぐにわかります。成果などは気にしなくてよいのです。

パナソニック創業者であり、いまなおビジネスシーンで多くの人々に影響を与えている松下幸之助氏の有名な言葉に「やってみなはれ」という名言があります。この背景には、挑戦やまずは行動することの重要性が隠れています。また彼が好んで引用していた言葉が、山本五十六氏の「やってみせ」だそうです。これは彼が運営指針や人を導き育てる心得として用いたそうで、これらの名言は彼のリーダーシップ、マネジメントや人を育てるスタンスがよくわかる言葉だと思い

ます。私も人を導き育てるためには日々実践し、その姿を見せることが大変重要だと考えています。もし、いま悩み、実践に二の足を踏んでいる方がいるのであれば、まずはあなたが考えたあなたのできることを「やってみなはれ」。

◆超実践～関わり方の基本～

先日、よろこび荘で契約された方が新たに入所されました。他者への関わりが非常に特殊な方で、本当に現場が困る行動をしてしまいます。ひっかく、トレーをひっくり返す、唾をかける、引っ張る、物を投げるなど挙げるときりがありません。では、どうして上記のような行動をしてしまうのか。「現場が困る行動」の中身には、なにが隠れているのか。このような方がよく言われそうなことを起点に、少し整理してみます。

①私たちが困らせたいんです

知的な障害がありながらASDをもつ方が、他者を困らせることができるのか。「困る」というのは一般的にどう判断してよいかかわらず、苦しい・悩ましいといった状態のことを指します。つまり苦しい・悩ましい状態にさせたいというのは、実は人の心の内を察することができる高度なことです。

②私たちの注意を引きたいんです

これは、理屈は通っているかもしれませんが。しかし同時に注意を引くという手段になぜ上記のような行動を選択するのか考えなくてははいけません。

③私たちで遊んでいる・楽しんでいるんです

これもだいたい②と同じです。なぜ上記のような行動が楽しいのか考えなくてははいけません。

以上のことから誤解を招きやすい方だったので、この方が入所する前に、遠山統括マネージャーに勉強会の実施をお願いしました。その目的は、注目やコミュニケーションの手段として困った行動を選択してしまう方に対する、支援者としての前提の姿勢と考え方の基本の理解です。なかでも特に重要な考え方として挙げたのが、次の2つです。

・正しく注目すること

課題のある行動をしたときだけ注目し行動していると、手段として成立してしまう。落ち着いて過ごしているときほど注目する。

・失敗させないこと

困った行動をしなくても適切に関わり、1日を終える経験(成功)をたくさんする。

ノンリアクション・ポジティブアプローチ

1.不適切な行動や行為に反応しない

本人に関わらない、反応しないのではない

2.すべきこと、相応しい行動を伝える

色々と問わずに淡々と、短く具体的に

3.2が出来たらすぐに賞賛する

分かりやすく、メリハリをつけて

※過去に一番うまくいった方法を選ぶ

前提として
日常的に丁寧に親切である
制限や叱責などがない

『関わり方の基本』一部抜粋(p13より)

日常的な関わり方について基本を見直すよい勉強会になりました。まずは困った行動だけに注目し行動することをやめて、それらをしなくても関わりをもつことから始めてみるのがよいかもしれません。(よろこび荘 大谷 健太)

取り組み報告 こんなこと、しています ～サニーサイド宮崎より～

◆サニーサイド宮崎って…

サニーサイド宮崎は、宮崎県小林市にある就労継続支援 B 型事業所で、ご利用者は現在員 15 名、職員 4 名で、日々さまざまな作業に取り組んでいます。ご利用者が「自分らしく働けること」「社会とつながること」「日々のなかにやりがいを感じられること」を大切にし、年齢や障害の程度、生活背景がそれぞれ違う方々に対して、一人ひとりのペースで安心して取り組める作業環境を整えることを目的としています。特に、以下の 3 つの点について留意しています。

①多様な作業の選択肢づくり

養鶏・リサイクル・内職・施設外就労・観光・宿泊事業など、ご利用者の得意なことや興味のあることに応じて選べる作業を幅広く提供。特に養鶏事業では、鶏の飼育環境の改善や採卵率向上に向けた工夫を重ねており、ご利用者とともに試行錯誤しながら取り組んでいます。

②年齢や体力への配慮と継続可能な作業設計

平均年齢が 55 歳(最高齢 84 歳)と高めであることから、座ってできる作業や、体力的な負担が少ない作業を中心に構成。「無理なく続けられること」「自分のペースで取り組めること」を重視し、作業内容や環境を柔軟に調整しています。

③地域とのつながりを意識した活動

観光事業や宿泊事業では、地域の方々との交流や環境整備を通じて、ご利用者が社会の一員としてかかわる機会を増やしています。“えびのペンション”周辺の整備や、観光地での活動を通じて地域に根ざした取り組みを進めています。

◆主な事業内容

サニーサイド宮崎の主な事業は次の 6 つです。ご利用者の方々には各事業の作業のなかで、それぞれのご希望や特性に合った作業工程に取り組んでいただいています。

○養鶏事業



ポリスブラウンという品種の鶏を平飼いで飼育しています。産まれる卵はすべて有精卵で、回収から販売までを一貫して行っています。販売先はリピーターの方がほとんどで、「おいしい」「もう、ほかの卵は買わなくなった」といった嬉しい声をいただいています。現在は飼育可能な上限である 500 羽を目標に、鶏のストレス緩和や採卵率の向上を目指し、よりよい飼育方法を日々模索しています。

○リサイクル事業

個人宅や企業さまを訪問し、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、古紙・段ボール、鉄くずなどの資源ごみを回収し

ています。回収した資源は種類ごとにていねいに分別し、リサイクル会社買い取りをしてもらっています。地域の資源循環に貢献できるよう、誠実な対応を心がけています。

○請負内職事業

企業さまからいただいた内職作業にも取り組んでいます。現在は①ポット入れ、②トマトのパック詰め、③粘土成形、④球根の仕分けなどが主な作業です。座って行える作業を中心に、ていねいさと集中力を活かしながら、安定した品質で作業を進めています。

ポット入れ作業の一工程



○施設外就労

企業さまの現場に赴き、スタッフの方が行う作業の準備などをサポートしています。実際の現場での作業を経験することで働く力と自信を育み、サニーサイド宮崎を卒業し A 型事業所や一般就労に進む際に、少しでも役立ててもらえればと考えています。

○観光事業

おかば学園を始めとする当法人のご利用者を対象に、南九州（宮崎県・熊本県・鹿児島県）の観光地を巡るツアーを企画・提案し、皆さまのアテンドを行っています。サニーサイド宮崎のご利用者には、観光で訪れた方の宿泊先“えびのペンション”周辺の環境整備にも取り組んでもらっています。九州を代表する観光名所からちょっとした穴場まで、少しずつコースを広げているところで、現在は当法人のみを対象としています。将来的にはサニーサイド宮崎周辺の事業所にも案内を行い、地域へ広げていきたいと考えています。

○一般宿泊事業

サンメッセ日南



2024 年 11 月より新たに開始した事業で、今後も力を入れていきたい取り組みです。

“えびのペンション”を観光事業以外にも有効に活用する

方法を検討するなかで、法人の保養所としてだけでなく、一般の方にも開放し簡易宿泊所として利用していただくことにしました。営業開始当初は口コミも宣伝もなく、どうしたらよいか迷いましたが、現在は法人のホームページやパンフレットの配布、Google マップの活用、インターネット予約などを通じて、少しずつお客さまが増えてきています。宿泊された方々からは、「すごくりラックスできた」「帰りたくないね」とご好評いただいております。ペンションノートが少しずつ埋まっていくのが現在の楽しみになっています。サニーサイド宮崎のご利用者には観光事業と同様に、作業として建物周辺の環境整備に取り組んでもらっています。

◆変わってきたこと

いろいろな取り組みを通じて、現場には少しずつ変化が見られています。

以前は、作業内容についても受け身の姿勢が多かった職員も、最近では日々の会話のなかで課題や方向性を共有しながら、「こうしたらもっと効率がよいのでは」「この作業はこの方に向いているかも」といった具体的な提案や工夫が自然と出てくるようになりました。ご利用者の様子や現場の状況を見ながら、職員自らが考えて動く姿勢がどんどん見られるようになっており、事業所全体の支援力が高まってきていると感じています。

ご利用者も、以前は作業の合間にぼんやりと過ごす時間が多かった方もいましたが、現在は作業種目の拡充と工程の細分化により、「常になにかしらの作業がある」という状態が定着しています。「やることがあるって嬉しい」「自分にもできることがある」といった声も聞かれるようになり、作業に取り組むことを通じて、毎日やりがいを感じていただいています。

◆変わらないこと

サニーサイド宮崎では、「その人がもっとも輝けること」を大切にしながら、作業の提供を行っています。だれもが自分らしくいきいきと働ける場所であること、それが私たちの願いです。ご利用者の方々の背景や目標はさまざまです。ここで力をつけ、次のステップを目指す方もいれば、高齢や体調などの理由で長期的な就労がむずかしく、当事業所での仕事そのものを生きがいとして過ごされている方もいます。

私たちがなにより大切にしているのは、「今日もサニーサイド宮崎で仕事ができて楽しかった」と感じて帰っていただくことです。「仕事＝大変・つらいもの」というイメージのままでは、前向きに新たな目標へ進む気持ちが生まれにくく、たとえ次のステップに進んでも長く続けることはむずかしいかもしれません。もちろん、仕事は楽しいことばかりではなく、困難なことも多くあります。しかし、信頼できる職員や仲間と支え合いながら取り組むことで、「大変だけど楽しい」「一緒に目標を達成できてうれしかった」「自分にしかできない仕事を任されている」というようなやりがいや、充実感を得ていただける環境をつくることができると考えています。そして、現在のサニーサイド宮崎は、そうした環境が少しずつではありますが、確かに整ってきていると感じていま

す。ご利用者はもちろん職員も含めて、一人ひとりが自分らしく輝ける、そんな場所であり続けられるよう、これからも日々取り組んでいきたいと思っています。

◆ぜひお越しください！

サニーサイド宮崎では一般のお客さまの“えびのペンション”のご利用をお待ちしています。ホームページにもご案内していますが、ご予約やご相談など080-2513-2696まで、お気軽にお問合せください。(サニーサイド宮崎 ^{おおむし} 大虫 直樹)

えびのペンション

えびの市京町温泉の貸切ペンション

きれいな景色と温泉はいかがですか？

宿泊プラン 貸切のみ
少人数でも大歓迎

1人 4,500円～(税込)
チェックイン13:00 チェックアウト12:00

日帰りプラン バイクや車も
移動の拠点にも

1時間 1,500円(税込)
チェックイン9:00 チェックアウト18:00

＜お知らせ＞

- ・利用可能人数は上限8名様までです。
- ・ご宿泊のお部屋は2階になります。各居室に鍵はございません。そのため、ご予約が入った時点で宿泊/日帰り問わず貸切となります。
- ・ペンションでは昼/夕食の提供はございません。お客様の方で食材の準備をお願い致します。
- ・建物内はバリアフリー化されておりません。階段や段差がありますのでご注意ください。
- ・ペンションには男性管理人が常駐しております。

「利用可能設備」

- ・温泉（宿泊の方のみご利用いただけます）
→バスタオル、シャンプー、ボディソープあります
- ・足湯
- ・調理器具（包丁、まな板、炊飯器等）
- ・生活設備（洗濯機、キッチン、食器等）
- ・BBQセット（2,000円でレンタル可能です）
→網、炭、着火剤、BBQ台、トング
- ・近隣施設/店舗への送迎（1往復500円）
- ・朝食サービス（お一人400円）
- ・無料駐車場（ワゴン車4台駐車可能）
- ・全室エアコン完備
- ・Wi-Fi

＜えびのペンション周辺の買い物施設＞

- ・セブンイレブン えびの市京町店
- ・ラッセルだいわ えびの店
- ・アタックス えびの店
- ・ドラッグストア コスモ えびの店

＜えびのペンション周辺の飲食店＞

- ・和風レストラン 一休草庵 和楽
- ・木蓮（カフェ）
- ・その他ラーメン屋、うどん屋 居酒屋あり

場所：えびの市同松418-60
担当：大虫（おおむし）
予約受付：080-2513-2696
お問い合わせ、ご予約のお電話お待ちしております。

全ての施設は車で5-10分の範囲にあります。

Googleマップ「えびのペンション」で検索
MAP（吹上温泉さんの上です）

＜宿泊料金のご説明＞

1～2名様 一人1泊5,500円
3～5名様 一人1泊5,000円
6～8名様 一人1泊4,500円

多人数だと宿泊料金が割引になりお得になります。

＜障害者割引適用可能＞

身体、知的、精神の支援をお持ちの方は宿泊料金を500円引かせて頂きます。
※人数割引との併用も可能です。

車いすをご利用のお客様がご宿泊をご希望される際は、1階リビングにある和室スペースをご利用いただけます。詳細はお電話にてご確認ください。

※ただし、宿泊約款に準じます。

＜追加サービスのご説明＞

送迎サービス 1往復500円
最寄りの駅(京町温泉駅)や、近隣の飲食店への往復送迎を行います。

BBQセットレンタル 2,000円
BBQ台、焼き網、炭、トング、着火剤のレンタルです。食材のご準備はお客様の方でお願いします。

朝食サービス お一人400円
平鍋の有精餅を使った卵かけごはん等、朝食をご用意させていただきます。
白米はお一人1合となります。
※要事前予約

◆福祉の仕事の目的

この業界で働いていると、「福祉とはどのような仕事ですか？」とか、「あなたはどのような仕事をしているのですか？」とかよく聞かれます。皆さまはどのように答えられますか？ 一般的には、「障害のある方々の生活の支援とか介護をしています」と答えるのかと思いますが、これは、あくまで仕事の「内容」です。では、この仕事の「目的」はなにかとか、なんのためにこのような仕事をしているのかとなったら、どのように答えたいのでしょうか？

福祉そのものの目的は、その対象となる人を幸せにすることですので、この仕事の目的は、必然的に、自分に関係する人（ご利用者等）を幸せにすることとなります。

ここで、ふと疑問が浮かんできます。では、なぜ、障害のある方々が幸せにならないといけないのか？という単純な疑問です。これに対する答えがなければ、福祉の向上も、私たちの仕事の目的も無意味なものとなってしまふように思います。

◆重いけど重要なモノ

（ここからちょっと哲学が宗教的な話になりますが）人類というものが存続し続け、進化し続けるためには、必ず障害のある方の存在が必要なのだと思います。長い人類の歴史のなかで、その割合は違っても、障害のある方が生まれてくる割合はゼロになったことはないと言われています。現に、これだけ医学が進歩し、科学が発展し、人類が進化し続けていても、障害のある方の数は大きく変動していません。この事実を見る限り、人類の歴史には、障害のある方が常に存在してきたといえますし、同時に、その存在は、不特定であり人類が想定できない現象であったといえるかと思います。

この世に生まれてくる不特定のだけれど、この障害という、大変重いけれども大変重要なモノを引き受けなければならないようになっているのだと思います。つまり、私たち健常者（と勝手に読んでいます）に代わって、この重要なモノを引き受けてくれている方がいるからこそ、いまこうやって健常者として生活できているのではないかと思ったりします。

そのように考えると、障害のある方こそ幸せになっていただく必要がありますし、私たちには、その義務のようなものがあるのではないかと思います。障害があるとかなないとかに関係なく、人には、必ずこの世に生まれてきた目的がありますし、人として生きていくうえでの役割があります。不要な人など存在しません。それを人間観と呼ぶのだと思います。（大）

陽気会は「福祉ゾーン」としてのコミュニティの創造を目指します

陽気会は、1958年9月1日に知的障害児施設おかば学園を開所し、2024年の9月から67年目に入りました。

私たちは、これからも私たちの生活の舞台としての“コミュニティ”をより暮らしやすいよう“デザイン”し、陽気会を拠点とした「福祉ゾーン」の創造を目指して、皆さまと力を合わせて実践していきます。

ラボサポーター(協力会員)募集中です

施設・事業所サポーター 年間 10,000 円

個人サポーター 年間 1,000 円

サポーターの皆さま、いつもありがとうございます

陽気会のホームページ
リニューアルしました

編集委員会：松端 克文
大西 博之・朝日 満子
大島 由香利

〒651-1313
神戸市北区有野中町 2-5-19
社会福祉法人陽気会
KOBE 北・コミュニティデザイン Lab.
Tel : 078(981)7271
Fax : 078(981)0825
HP : <http://youkikai.or.jp/>
Email: kcdlab@youkikai.or.jp

